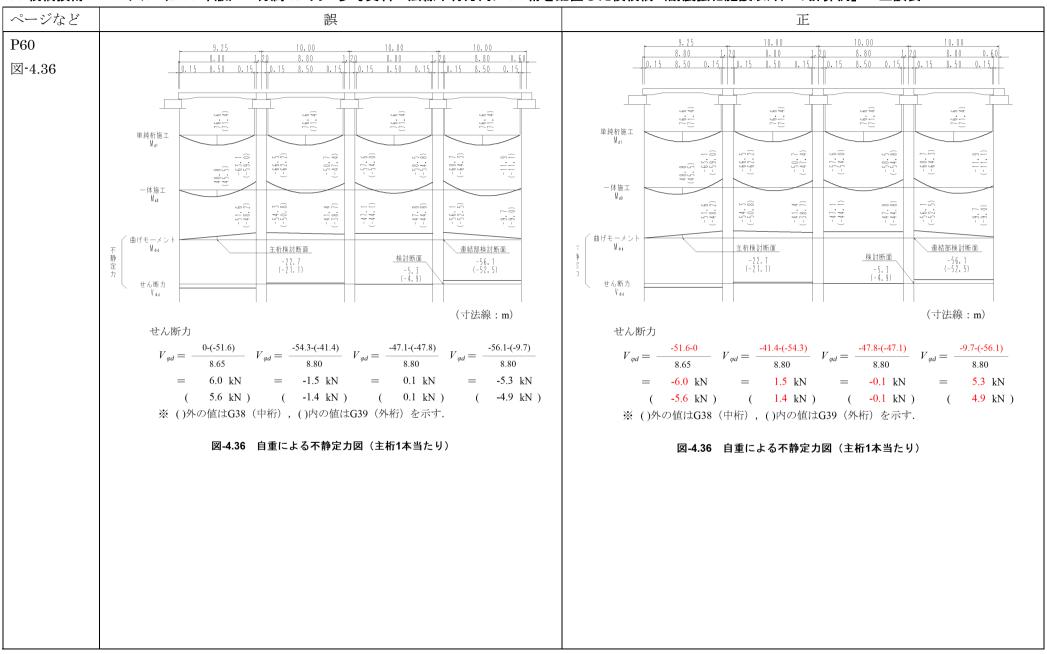
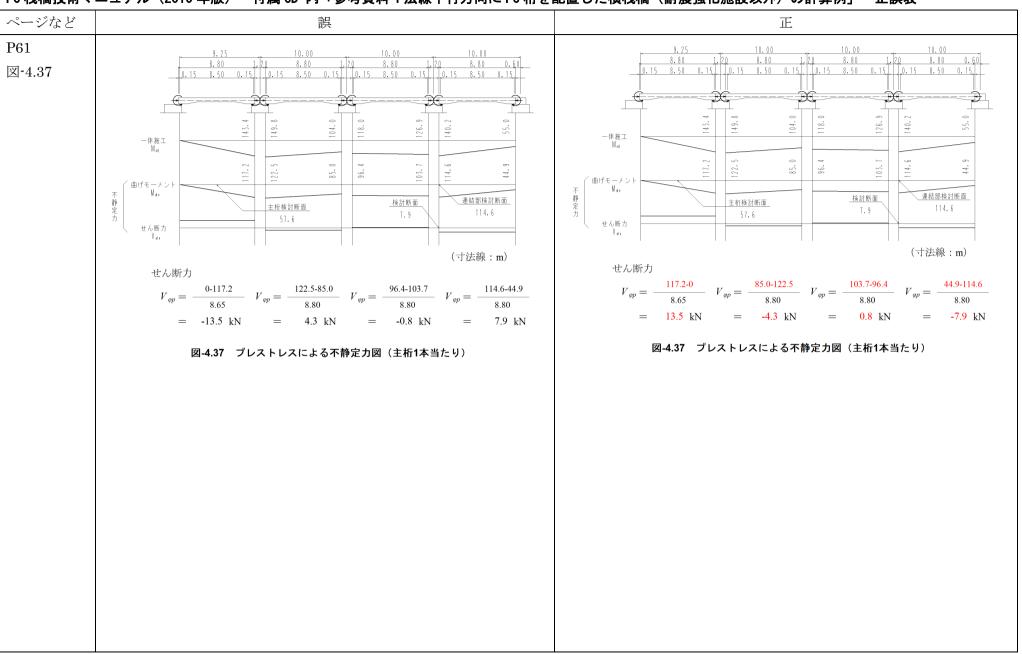
ページなど								誤	ŗ														E								
P34	4.3 主桁・				ţ											4.3 主析・連結部の検討															
表-4.5	4.3.1 荷重会	分配 (省略		算												4.3.1 荷重	分酉 (省		計算												
1.0	4.3.2 断面:															4.3.2 断面			算												
	((省略	各)														(省	略)													
	断面	1力の	り集計	+												断百	百力	の集	計												
		3	J(KN) G38			2.5	0.0	9.7	12.2	-5.3	2.6		97.9	106.0	106.2			7(kN)	G38		2.5	0.0	9.7	12.2	5.3	-2.6		97.9	106.0	106.2	115.0
		響	世ん断刀(kN) G39 G38			3.0	0.0	9.9	12.9	4.9	3.0	1 00	101.5	116.1	119.0		部	せん断力(kN)	G39		3.0	0.0	6.6	12.9	4.9	-3.0	- 000	101.5	116.1	119.0	130.2
		庫報	(kN·m)		ı	-3.9	0.0	-14.7	-18.6	-56.1	58.5	1 0 0 1	-114.5	-153.8	-92.8		連結部	(kN·m)	G38		-3.9	0.0	-14.7	-18.6	-56.1	58.5		-140.9	-153.8	-92.8	-95.8
		2	冊(ブモーメント(KN・m) G39 G38			-4.5	0.0	-15.0	-19.5	-52.5	62.1	1 42 0	-118.8	-168.5	-104.0			曲げモーバント(kN・m)	G39		-4.5	0.0	-15.0	-19.5	-52.5	62.1	143 0	-145.8	-168.5	-104.0	-108.1
	庫結部)	1		35.2	4.9	2.5	0.0	9.7	52.3	-5.3	2.6		97.9	106.0	112.0	連結部)			G38	4.9	2.5	0.0	9.7	52.3	5.3	-2.6		97.9	106.0	106.2	115.0
	(主桁・連結部)	引中央部)	世ん町刀(kN) G39 G38	35.2	2.4	3.0	0.0	6.6	50.5	4.9	3.0	1 00	101.5	116.1	119.0	(主析・連結部)	(支間中央部)	せん断力(kN)	G39	2.4	3.0	0.0	6.6	50.5	4.9	-3.0	- 000	101.5	116.1	119.0	150.2
	断面力集計一覧表	桁 (支間	(kN·m)	66.2	10.4	3.0	0.0	11.0	9.06	-22.7	34.9	1 22	132.5	143.1	185.5	断面力集計一覧表	桁 (支間	(kN·m)	G38	10.4	3.0	0.0	11.0	9.06	-22.7	34.9	- 60	132.5	143.1	185.5	158.4
	断面力集	# 3	田(ブモーメント(kN・m) G39 G38	66.2	5.2	3.5	0.0	11.3	86.2	-21.1	36.5	3 701	137.7	157.5	208.6	断面力集	主	曲げモーメント(KN・m)	G39	5.2	3.5	0.0	11.3	86.2	-21.1	36.5		137.7	157.5	208.6	184.2
	**************************************				⟩ 自重					自重による不静定力プレストレスによる不動の	N O I BY ALL	2013/1/2 日/3開6百 45.社	w-zokivm, 奶着棘戟削 法線平行方向載荷	法線直角方向載荷	法線平行方向載荷(衝擊含) 注绝声名士向群在(海擊令)	表4.5	•			↑ 自重				-	定力よる不静定力		2 H7 WHI (AS 41) 44	w=20kN/m, 影響綠戰何 法線平行方向載荷	法線直角方向載荷	法線平行方向載荷(衝擊含) 社線直角上向報告(衝擊令)	国
				車	711-	_	海側			よる不静気		_	1						Ą	土が日里間詰コンクリート自重	陸側	海側			よる不静トレスに		-				
				主桁自	間詰コン	班	7 #			自軍にプレン	小計	待株花毛		梅	74-717小 荷 重				十七七十	土が日里間詰コン	差	#			自重にプレス	十	4		荷重	7/4-7/17	\rightarrow
	L						水;	荒作!	E				変動	作用	2							永续	松作 田	Ę				変献	3作田	Ę	*





4.9 2.5 -4.5 -3.9 3.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 9.7 -15.0 -14.7 9.9 52.3 -19.5 -18.6 12.9 1 -5.3 -52.5 -56.1 -4.9 -7 7.9 114.6 114.6 7.9 7.6 6.7 58.5 3.0	34.9 3.0 2.6 62.1 58.5 3.0 2.6 5.1 58.5 3.0 2.6 5.1 5.5 5.0
2.4 4.9 3.0 2.5 -4.5 -3.9 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0	.0 2.6 62.1 58.5
2.4 4.9 3.0 2.5 -4.5 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0	.0 2.6 62.1
2.4 4.9 - 2.5 3.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0	.0 2.6
3.0 0.0 0.0 0.0 9.9 50.5 50.5 7.9	0. 6. 2. 1. 0. 2.
8 1	 3.9 88.9 2.5 101.5 13.1 116.1 55.5 119.0 88.4 130.2 86集計した.
3.0 0.0 0.0 11.0 90.6 57.6 34.9	7.5.5 7.5.5 7.5.5 7.5.5 7.5.5 8.4 8.4
	5 12 12 13 13 13 13 13 13
5.2 3.5 0.0 0.0 11.3 86.2 -21.1 57.6	36.5 126.5 137.7 157.5 208.6 184.2
ンクリート自重 陸側 海側 よる不静定力 トレスによる不静定力	小 計 積載荷重 w=20kN/m², 影響線載荷 126.5 123.9 88 自動車 法線平行方向載荷 137.7 132.5 101 荷 重 法線平行方向載荷 157.5 143.1 116 フォーツフト 法線平行方向載荷(衝撃含) 208.6 185.5 119 荷 重 法線直角方向載荷(衝撃含) 184.2 188.4 130 レベル1地震動作用時, 揚圧力作用時の各断面力は別途集計した.
間 問 事 事 株 な お な な プレス 学 中	小 計 積載者 計 百動車 市 オーツストリストレベル1地 レベル1地
717	14 マ 14 マ

ページなど	誤	正
P86	2) 斜め引張応力度の計算	2) 斜め引張応力度の計算
	$\sigma_{I} = \frac{\sigma_{x} + \sigma_{y}}{2} - \frac{1}{2} \sqrt{\{(\sigma_{x} - \sigma_{y})^{2} + 4\tau^{2}\}}$	$\sigma_I = \frac{\sigma_x + \sigma_y}{2} - \frac{1}{2} \sqrt{\{(\sigma_x - \sigma_y)^2 + 4\tau^2\}}$
	$= \frac{(2.5+0)}{2} - \frac{1}{2} \sqrt{\{(2.5-0)^2 + 4 \times 2.0^2\}}$	$= \frac{(2.5+0)}{2} - \frac{1}{2} \sqrt{(2.5-0)^2 + 4 \times 1.9^2}$
	= -1.1 N/mm ² > 制限値 σ_{Ia} = 0.75·0.23 f'_{ck} ^{2/3} = -2.3 N/mm ² ※ 2.6 制限値 参照	= -1.0 N/mm^2 > 制限値 σ_{Ia} = $0.75 \cdot 0.23 f'_{ck}^{2/3}$ = -2.3 N/mm^2 ※ 2.6 制限値 参照
	ここに、 σ_I : 斜め引張応力度	ここに、 σ_I : 斜め引張応力度
	σ_x : 垂直応力度	σ_{x} : 垂直応力度
	斜め引張応力度の計算は、部材断面図心位置と垂直応力度が0の	斜め引張応力度の計算は、部材断面図心位置と垂直応力度が0の
	位置で行えばよい. ここでは、腹部内に垂直応力度が0となる位置	位置で行えばよい、ここでは、腹部内に垂直応力度が0となる位置
	がないため、部材断面図心位置について検討を行う.	がないため、部材断面図心位置について検討を行う.
	$\sigma_x = P_e'/A_c = 718000/283600$	$\sigma_x = P_e' / A_c = 718000 / 283600$
	$= 2.5 \text{ N/mm}^2$	$= 2.5 \text{ N/mm}^2$
	ここに, P_e' : 有効プレストレス (718.0 kN)	ここに、 P_{e} ': 有効プレストレス (718.0 kN)
	$P_e' = P_e \times (10/14) \times (1.000 - 0.332)$	$P_{e'} = P_{e} \times (10/14) \times (1.000 - 0.332)$
	$= 1504.8 \times (10/14) \times (1.000 - 0.332)$	$= 1504.8 \times (10/14) \times (1.000 - 0.332)$
	= 718.0 kN	= 718.0 kN
	※ 4.2 作用の条件 の主桁のプレストレスの計算結果より,	※ 4.2 作用の条件 の主桁のプレストレスの計算結果より、
	ボンドコントロール鋼材を控除(14本中の10本を考慮)し、PC	ボンドコントロール鋼材を控除(14本中の10本を考慮)し、PC
	鋼材の定着長を考慮(プレストレスが桁端から650の位置から	鋼材の定着長を考慮(プレストレスが桁端から650の位置から
	桁端にかけて0となるような放物線で減少する、桁端から1/2Hの	桁端にかけて0となるような放物線で減少する。桁端から1/2Hの
	位置では-33.2%) した有効プレストレスを用いた.	位置では-33.2%) した有効プレストレスを用いた.
	Ac : コンクリート総断面の断面積 (283600 mm²)	A _c : コンクリート絵断面の断面積 (283600 mm ²)
	σ_v : σ_x に直交する応力度	σ_v : σ_x に直交する応力度
	$\sigma_{v} = 0.0 \text{ N/mm}^2$	$\sigma_{v} = 0.0 \text{ N/mm}^{2}$
	τ : せん断応力度	τ : せん断応力度
	$\tau = \frac{(V_{dd} - V_{pe}) \cdot Q}{b_w \cdot I} = \frac{(183700 - 0) \times 17960000}{240 \times 6820000000}$	$\tau = \frac{(V_{dd} - V_{pe}) \cdot Q}{b_w \cdot I} = \frac{(17700 - 0) \times 17960000}{240 \times 6820000000}$
	$= 2.0 \text{ N/mm}^2$	$= 1.9 \text{ N/mm}^2$
	ここに、 V_{ad} : 変動作用時のせん断力	ここに、 V_{ad} : 変動作用時のせん断力
	$V_{dd} = V_{d1} + V_{d2} + V_{L}$	$V_{dd} = V_{d1} + V_{d2} + V_{L}$
	= 50.5 + 3.0 + 130.2	= 50.5 + (-3.0) + 130.2
	= 183.7 kN	= 177.7 kN
	ここに、 4.3.2 断面力の計算 より、	ここに、4.3.2 断面力の計算 より、
	V _{d1} : 永続作用によるせん断力 (50.5 kN)	V_{d1} : 永続作用によるせん断力 (50.5 kN)
	V_{d2} : 不静定力によるせん断力 (3.0 kN)	V_{d2} : 不静定力によるせん断力 $($ -3.0 kN $)$
	V_L : 変動作用によるせん断力 (130.2 kN)	V_I : 変動作用によるせん断力 (130.2 kN)
	V_{ne} : PC 鋼材の引張力による鉛直成分 (0.0 kN)	V _{ne} : PC鋼材の引張力による鉛直成分 (0.0 kN)

PC 桟橋技術マニュアル(2010年版) 付属 CD 内「参考資料 1 法線平行方向に PC 桁を配置した横桟橋(耐震強化施設以外)の計算例」 正誤表

ページなど 正 P96 (2) せん断に対する検討 (2) せん断に対する検討 せん断に対する検討は、"せん断力の設計用値"の"せん断耐力および斜め圧縮破壊 せん断に対する検討は、"せん断力の設計用値"の"せん断耐力および斜め圧縮破壊 表-4.23 耐力の設計用値"に対する比が1.0以下であることを照査する. 耐力の設計用値"に対する比が10以下であることを照査する。 1) フォークリフト荷重(法線直角方向載荷)作用時 1) フォークリフト荷重(法線直角方向載荷)作用時 i)検討断面 i)検討断面 4.3.3.1 使用限界状態に対する検討より、常時の作用として、フォークリフト荷重 4.3.3.1 使用限界状態に対する検討より、常時の作用として、フォークリフト荷重 (法線直角方向載荷) 作用時の検討を行う、せん断耐力および斜め圧縮破壊耐力の (法線直角方向載荷) 作用時の検討を行う、せん断耐力および斜め圧縮破壊耐力の 設計用値は、支点側中空断面に対して算出する. 設計用値は、支点側中空断面に対して算出する. 計算上考慮した鋼材 計算上考慮した鋼材 <u>主桁スターラッフ</u> SD345, D19 PC鋼より線 SWPR7RL 7本より19.7mm PC銅より線 SWPR7RI 7本より12.7mm (単位:mm) (単位: mm) 図-4.75 主桁検討断面 図-4.75 主桁検討断面 ii) 断面力の設計用値 V_{d1} ii) 断面力の設計用値 V_d1 $V_{d1} = \gamma_{fd} \cdot V_{dd} + \gamma_{fau} \cdot V_{dau} + \gamma_{fL} \cdot V_{dL}$ $V_{d1} = \gamma_{fd} \cdot V_{dd} + \gamma_{fau} \cdot V_{dau} + \gamma_{fL} \cdot V_{dL}$ $= 1.1 \times 50.5 + 1.0 \times (-3.0) + 1.2 \times 130.2$ $= 1.1 \times 50.5 + 1.0 \times 3.0 + 1.2 \times 130.2$ = 208.8 kN= 214.8 kNここに、2.4 部分係数、4.3.2 断面力の計算 より、 ここに、2.4 部分係数、4.3.2 断面力の計算 より、 γ_{tt}: 永続作用に対する荷重係数 (0.9, 1.1)γ₆₄ : 永続作用に対する荷重係数 (0.9, 1.1)V_{dd} : 永続作用によるせん断力 (50.5 kN) V_{dd} : 永続作用によるせん断力 (50.5 kN)γ_{fau} : 不静定力に対する荷重係数 (1.0) у_{бш}: 不静定力に対する荷重係数 (1.0) V_{dow} : 不静定力によるせん断力 (-3.0 kN) V_{day} : 不静定力によるせん断力 (3.0 kN)γ_π : 変動作用に対する荷重係数 (0.8 , 1.2) γπ : 変動作用に対する荷重係数 (0.8, 1.2) V_{dL} : 変動作用によるせん断力 (130.2 kN) Var. : 変動作用によるせん断力 (130.2 kN)

ページなど	誤	正
P100	\bigcirc V_{ped} : 軸方向緊張材の有効引張力のせん断力に平行な成分 $V_{ped}=0.00~\mathrm{kN}$	\bigcirc V_{ped} : 軸方向緊張材の有効引張力のせん断力に平行な成分 $V_{ped}=0.00~\mathrm{kN}$
	以上より、部材のせん断耐力の設計用値は、 $V_{yd1} = 87.03 + 468.69 + 0 = 555.7 \text{ kN}$	以上より,部材のせん断耐力の設計用値は, $V_{yd1}=87.03+468.69+0=555.7~{ m kN}$
	iv) 斜め圧縮破壊耐力の設計用値 $V_{wcd 1}$ $V_{wcd 1} = f_{wcd} \cdot b_w \cdot d / \gamma_b$ ここに、 $f_{wcd} = 1.25 \sqrt{f'_{cd}}$ $= 1.25 \sqrt{38.5}$ $= 7.76 \text{ N/mm}^2$ $(\le 7.8 \text{ N/mm}^2)$ $f'_{cd} : \exists z > 0 / 1.3 = 38.5 \text{ N/mm}^2$ $b_w : 腹部の幅 (240 mm)$ $d : 有効高さ (375 mm)$ $\gamma_b : 部材係数 (1.3)$ 以上より,部材の斜め圧縮破壊耐力の設計用値は, $V_{wcd 1} = 7.76 \times 240 \times 375 / 1.3 = 537231 \text{ N} = 537.2 \text{ kN}$	iv) 斜め圧縮破壊耐力の設計用値 $V_{wcd 1}$ $V_{wcd 1} = f_{wcd} \cdot b_w \cdot d / \gamma_b$ ここに、 $f_{wcd} = 1.25 \sqrt{f'_{cd}}$ $= 1.25 \sqrt{38.5}$ $= 7.76 \text{ N/mm}^2 \qquad (\leq 7.8 \text{ N/mm}^2)$ $f'_{cd} : 2 \sqrt{y} - \text{Now}^2$ $b_w : 腹部の幅 (240 \text{ mm})$ $d : 有効高さ (375 \text{ mm})$ $\gamma_b : 部材係数 (1.3)$ 以上より、部材の斜め圧縮破壊耐力の設計用値は、 $V_{wcd 1} = 7.76 \times 240 \times 375 / 1.3 = 537.2 \text{ kN}$
	v) 安全性の検討 $\gamma_i \cdot V_{d1}/V_{yd1} = (1.2 \times 214.8)/555.7 = 0.46 < 1.0$ $\gamma_i \cdot V_{d1}/V_{wcd1} = (1.2 \times 214.8)/537.2 = 0.48 < 1.0$ ここに、 γ_i : 構造物係数 (1.2)	v)安全性の検討 $\gamma_i \cdot V_{d1}/V_{yd1} = (1.2 \times 208.8) / 555.7 = 0.45 < 1.0$ $\gamma_i \cdot V_{d1}/V_{wcd1} = (1.2 \times 208.8) / 537.2 = 0.47 < 1.0$ ここに、 γ_i : 構造物係数 (1.2)

. ·				誤							正						
	iii) 安全性の検討							iii) 安全性の検討									
		表-4.3	3 せん	断に対する検	討結果				表-4.3	3 せん	断に対する検	討結果	果				
				左加	力時	右加	力時				左加	力時	右加	力時			
				桁端増厚部	標準部	桁端増厚部	標準部				桁端増厚部	標準部	桁端増厚部	標準部			
	作用断面力	V d 2	kN	143.1	99.6	191.2	147.7	作用断面力	V_{d2}	kN	137.1	93.6	185.2	141.7			
	(主桁1本当たり)	N_{d2}	kN	60.1	60.1	225.1	225.1	(主桁1本当たり)	N _{d2}	kN	60.1	60.1	225.1	225.1			
	構造物係数	γ,		1.2	1.2	1.2	1.2	構造物係数	71		1.2	1.2	1.2	1.2			
	せん断力の設計用値	$\gamma_i \cdot V_{d2}$	kN	171.7	119.5	229.4	177.2	せん断力の設計用値	$\gamma_i \cdot V_{d2}$	kN	164.5	112.3	222.2	170			
	腹部の幅	<i>b</i> _w	mm	640	240	640	240	腹部の幅	<i>b</i> w	mm	640	240	640	240			
	有効高さ	d	mm	578	420	578	420	有効高さ	d	mm	578	420	578	420			
	設計基準強度	f'ck	N/mm ²	50	50	50	50	設計基準強度	f_{ck}	N/mm ²	50	50	50	50			
	材料係数	γ c		1.3	1.3	1.3	1.3	材料係数	7 c	1 10 111111	1.3	1.3	1.3	1.3			
	圧縮強度の設計用値	f' cd	N/mm ²	38.5	38.5	38.5	38.5	圧縮強度の設計用値	f cd	N/mm ²	38.5	38.5	38.5	38.5			
	f_{wcd}		N/mm ²	7.76	7.76	7.76	7.76	f_{wcd}	o cu	N/mm ²	7.76	7.76	7.76	7.76			
	部材係数	γ ь		1.3	1.3	1.3	1.3	部材係数	γ ь		1.3	1.3	1.3	1.3			
	斜め圧縮破壊耐力	$V_{wcd 2}$	kN	2208.14	601.70	2208.14	601.70	斜め圧縮破壊耐力	$V_{wcd 2}$	kN	2208.14	601.70	2208.14	601.70			
	β_d			1.147	1.242	1.147	1.242	β_d			1.147	1.242	1.147	1.242			
	β_{p}			1.032	0.585	1.032	0.585	β_{p}			1.032	0.585	1.032	0.585			
	引張鉄筋比	p_{ν}		0.0110	0.0020	0.0110	0.0020	引張鉄筋比	p _v		0.0110	0.0020	0.0110	0.0020			
	引張側鋼材の断面積	A_s	mm ²	4053.6	197.4	4053.6	197.4	引張側鋼材の断面積	A_s	mm ²	4053.6	197.4	4053.6	197.4			
	β_n			1.018	1.330	1.069	1.544	β_n			1.018	1.330	1.069	1.544			
		M_{0}		7.01	23.10	26.26	38.07		M_{0}		7.01	23.10	26.26	38.07			
	有効プレストレス	P_{e}	kN		1504.8		1504.8	有効プレストレス	P_{e}	kN		1504.8		1504.8			
	総断面の断面係数	W_L	m ³	0.05227	0.02573	0.05227	0.02573	総断面の断面係数	W_L	m ³	0.05227	0.02573	0.05227	0.02573			
	総断面の断面積	A_c	m ²	0.4480	0.2836	0.4480	0.2836	総断面の断面積	A_c	m ²	0.4480	0.2836	0.4480	0.2836			
	偏心距離	e_p	mm		-79		-79	偏心距離	e_p	mm		-79		-79			
	曲げ耐力	M_d		759.70	140.03	759.70	140.03	曲げ耐力	M_d		759.70	140.03	759.70	140.03			
	f_{vcd}		N/mm ²	0.68	0.68	0.68	0.68	f_{vcd}		N/mm ²	0.68	0.68	0.68	0.68			
	部材係数	у ь		1.3	1.3	1.3	1.3	部材係数	γ ь		1.3	1.3	1.3	1.3			
	V_{cd}		kN	233.17	50.95	244.85	59.15	V_{cd}		kN	233.17	50.95	244.85	59.15			
	せん断補強筋の径	φ	mm	D19	D13	D19	D13	せん断補強筋の径	φ	mm	D19	D13	D19	D13			
	せん断補強筋の総断面	積 A _w	mm ²	573.0	253.4	573.0	253.4	せん断補強筋の総断面	積 A _w	mm ²	573.0	253.4	573.0	253.4			
	" 設計降伏強度	f_{wyd}	N/mm ²	345	345	345	345	" 設計降伏強度	f_{wyd}	N/mm ²	345	345	345	345			
	mbe also who as data full																

N/mm²

kN

kN

" 降伏強度の特性値 f_{yk}

" 部材軸となす角度 α, 〃 配置間隔

" 材料係数

部材係数

 $V_{yd2} = V_{cd} + V_{sd}$

 $\gamma_i \cdot V_{d2} / V_{wcd2}$

 $\gamma_i \cdot V_{d2} / V_{yd2}$

345

1.0

125

503

1.1

723.17

956.34

0.08

0.18

345

1.0

200

365

1.1

145.04

195.99

0.20

345

1.0

125

503

1.1

723.17

968.02

0.10

345

1.0

200

365

145.04

204.19

0.29

			左加	力時	右加	〕時	
			桁端増厚部	標準部	桁端増厚部	標準部	
作用断面力	V_{d2}	kN	137.1	93.6	185.2	141.7	
(主桁1本当たり)	N_{d2}	kN	60.1	60.1	225.1	225.1	
構造物係数	γ,		1.2	1.2	1.2	1.2	
せん断力の設計用値	$\gamma_i \cdot V_{d2}$	kN	164.5	112.3	222.2	170	
腹部の幅	b _w	mm	640	240	640	240	
有効高さ	d	mm	578	420	578	420	
設計基準強度	f'_{ck}	N/mm ²	50	50	50	50	
材料係数	γ		1.3	1.3	1.3	1.3	
圧縮強度の設計用値	f'cd	N/mm ²	38.5	38.5	38.5	38.5	
f_{wed}		N/mm ²	7.76	7.76	7.76	7.76	
部材係数	γь		1.3	1.3	1.3	1.3	
斜め圧縮破壊耐力	V wcd 2	kN	2208.14	601.70	2208.14	601.70	
β_d			1.147	1.242	1.147	1.242	
β_p			1.032	0.585	1.032	0.585	
引張鉄筋比	p _v		0.0110	0.0020	0.0110	0.0020	
引張側鋼材の断面積	A_s	mm ²	4053.6	197.4	4053.6	197.4	
β_n			1.018	1.330	1.069	1.544	
	M_0		7.01	23.10	26.26	38.07	
有効プレストレス	P_{e}	kN		1504.8		1504.8	
総断面の断面係数	W_L	m ³	0.05227	0.02573	0.05227	0.02573	
総断面の断面積	A_c	m ²	0.4480	0.2836	0.4480	0.2836	
偏心距離	e_p	mm		-79		-79	
曲げ耐力	M_d		759.70	140.03	759.70	140.03	
f_{vcd}		N/mm ²	0.68	0.68	0.68	0.68	
部材係数	γ ь		1.3	1.3	1.3	1.3	
V_{cd}	, .	kN	233.17	50.95	244.85	59.15	
せん断補強筋の径	φ	mm	D19	D13	D19	D13	
せん断補強筋の総断面積	A	mm ²	573.0	253.4	573.0	253.4	
" 設計降伏強度	f_{wvd}	N/mm ²	345	345	345	345	
" 降伏強度の特性値		N/mm ²	345	345	345	345	
" 材料係数	γ _s		1.0	1.0	1.0	1.0	
" 部材軸となす角度		0	90	90	90	90	
"配置間隔	S_s	mm	125	200	125	200	
Z	-	mm	503	365	503	365	
部材係数	7 6		1.1	1.1	1.1	1.1	
V_{sd}		kN	723.17	145.04	723.17	145.04	
$V_{vd2} = V_{cd} + V_{sd}$		kN	956.34	195.99	968.02	204.19	
$\gamma_i \cdot V_{d2} / V_{wcd2}$			0.07	0.19	0.10	0.28	
$\gamma_i \cdot V_{d2} / V_{yd2}$			0.17	0.57	0.23	0.83	

 $imes M_0$ 算出時の軸力は、桁端拡幅部はレベル1地震動による軸力、桁標準部はレベル1地震動および 有効プレストレスによる軸力を考慮した.

 $ext{※}$ M_0 算出時の軸力は、桁端拡幅部はレベル1地震動による軸力、桁標準部はレベル1地震動および 有効プレストレスによる軸力を考慮した.

[※] 引張側鋼材は、桁端拡幅部は主桁埋込鉄筋、桁標準部はPC鋼材を考慮した.

[※] 引張側鋼材は、桁端拡幅部は主桁埋込鉄筋、桁標準部はPC鋼材を考慮した.